

平成 2 4 年度第 2 回瑞穂町廃棄物減量等推進審議会 会議録	
1 日 時	平成 2 5 年 2 月 1 8 日 ( 月曜日 ) 1 3 時 3 0 分から 1 5 時 3 0 分まで
2 場 所	みずほリサイクルプラザ 2 階研修室
3 出席者及び 欠席者	( 審議会委員 ) 出席者 : 鳥海会長、根岸副会長、塩澤委員、古川 委員、小林委員、臼井委員、坂内委員 欠席者 : 天沼委員、田中委員、村田委員 事務局 : 田辺住民部長、臼井環境課長、町田清掃 係長、寺島主任
4 議 題	( 1 )燃やせるごみ減量のための取組について(ダ ンボールコンポスト) ( 2 )西多摩衛生組合での災害廃棄物受入に関 する進捗状況について ( 3 )その他
5 傍 聴 人	0 名
6 配布資料	次第 平成 2 4 年度第 2 回瑞穂町廃棄物減量等 推進審議会次第 ( A 4 1 枚 ) 資料 1 ダンボールコンポスト試用実験結果報告 書 ( 概要 ) ( A 3 1 枚 ) 資料 2 ダンボールコンポスト試用実験結果報告 書 ( A 4 表裏 9 8 ページ ) 資料 災害廃棄物の受入状況について ( A 3 表裏 1 0 ページ ) 資料 環境報告書 2 0 1 2 ( 冊子 ) 西多摩衛生組合のホームページに公開してあり

ますので、そちらをご覧ください。( [http://www.nishiei.or.jp/data/000\\_data/002\\_houkoku.html](http://www.nishiei.or.jp/data/000_data/002_houkoku.html) )

( 議題 1 )

燃やせるごみ減量のための取組について ( ダンボールコンポスト )

( 会議内容 )

( 鳥海会長 )

それでは、議題 ( 1 ) 「燃やせるごみ減量のための取組について ( ダンボールコンポスト )」、まず事務局より資料の説明を求めます。

( 事務局 )

「議題 ( 1 ) 燃やせるごみ減量のための取組について ( ダンボールコンポスト )」について、お手元に配布いたしました、「資料 1 ダンボールコンポスト試用実験結果報告書 ( 概要 )」及び「資料 2 ダンボールコンポスト試用実験結果報告書」を使ってご説明いたします。

資料 1 は、資料 2 をまとめたものになりますので、主に資料 1 を使って説明し、資料 2 は時々参照する形をおとりいたします。

\* 資料 1

さて、資料 1 を説明するにあたって、その構成を先にご説明いたします。

資料 1 は大きく分けて 3 つに分類されています。

1 つ目が、「一 ダンボールコンポスト試用実験について」です。ここで、今回行った実験の内容についてご報告いたします。

2 つ目が、「二 モニター実験について」です。これは瑞穂生活学校にお願いして、実験の一部にモニターとして協力していただいた結果についてご報告するものです。

3 つ目が、「まとめ」です。実験結果を踏まえて、事務局の意見等を報告するものです。

\* 資料 1 左側  
— ダンボール  
コンポスト試用  
実験について  
1 経過

それでは、「— ダンボールコンポスト試用実験について」についてからご説明を始めたいと思います。

まずは、「1 経緯」のところについてご説明いたします。

前回の審議会でもご説明いたしましたが、ダンボールコンポストとは、「家庭から出る生ごみをピートモス等の基材とともに段ボール箱に入れ、その中で減量・堆肥化を行うもの」のことを言います。

今回、この実験を行うに至った経緯については、前回の審議会で「平成25年度以降のダンボールコンポストの啓発をするかどうか」について検討した結果、実際に実験を行ってから検討することが望ましいということになりましたので、平成24年8月3日から平成25年2月14日まで行ったものです。

次に、「2 実験段階別評価・結果報告」についてご説明いたします。

まずは、それぞれの実験段階をご覧いただく前に、実験の概要についてご覧いただきたいと思えます。

\* 資料 2 1 ペ  
— ジ 下図

お手数ですが、資料2の1ページ目の下の図「ダンボールコンポスト試用実験の3段階について」をご覧ください。

この実験は大きく3つの段階に分けることができます。

まず、1つ目を「生ごみ投入」段階としておりますが、今回の実験及びダンボールコンポストの実施段階の中心となる段階といえます。

ダンボールコンポストに生ごみを入れ、微生物

の力で分解して、生ごみを減量・堆肥化を進める過程をいいます。

この実験を平成24年8月23日から11月22日までの3か月間にわたって行いました。

次に、2つ目を「堆肥成熟」段階としておりますが、先ほどの生ごみを投入したことでできた堆肥の素となるものを、1か月程度かけて、完熟した堆肥にするという段階で、植物が栄養を吸収しやすい安全な状態にするために行うものです。

この実験は、1週間に1度、堆肥の素となるものに水を与えて、中にある生ごみの分解を進め、一定程度時間をかけて、堆肥として成熟させる過程です。これを平成24年12月6日から同年12月27日までの3週間程度に渡り行いました。

最後に、3つ目を「堆肥の性能実験段階」としておりますが、先ほどの工程で熟成させた堆肥を使用して、実際に植物を一定期間育てる比較実験を行うことで、堆肥としての性能を見てわかるようにするというものでした。

これは、パンジー、リーフレタスを2株ずつ用意して、一つのポットにはエコパークで採取した土のみを入れ、もう一方のポットにはその土に加えて、作成した堆肥を入れます。そして、しばらくの間、両方の成長具合を記録し、その様子を見比べるなどの観察を行ったもので、平成25年1月24日から同年2月14日までの3週間程度に渡り行ったものです。

実験の概要については以上です。

\* 資料1 左側  
— ダンボール

それでは、資料1の「2 実験段階別評価・結果報告」の「(1) 生ごみ投入実験段階について」

コンポスト試用  
実験について

2 実験段階別  
評価・結果報告  
(1) 生ごみ投  
入実験段階につ  
いて

(2) 堆肥熟成  
実験段階につ  
いて

(3) 堆肥性能  
実験段階につ  
いて

へお戻りください。

実験の詳細などについては、資料2に譲りますが、この段階では少数ではありますが、一度、小バエが発生するということがありました。しかし、それ以外には、悪臭がひどいことや、ごみがあふれてしまうことなどのようなトラブルはなく、順調に実験は進み、3か月で20kgの生ごみを減量することができました。

なお、コンポストの状態の変化については、写真をご覧ください。

実験開始時点の写真である左側に比べて、右側はかなり土っぽくなっていることがわかんと思います。

さて、次は、「(2)堆肥熟成実験段階について」です。

こちらも、特に問題はなく、3週間程度で堆肥として成熟したと判断しました。

なお、コンポストの状態の変化については、写真をご覧ください。

実験開始時点の写真である左側に比べて、右側はより入っていた生ごみも分解されて、触ってみると湿り気もあり、土っぽくなっていますが、写真ではなかなかわかりにくいところもあるかと思ひます。

最後に、「(3)堆肥性能実験段階について」です。こちらは写真をご覧ください。

パンジーの花の付き方やレタスの葉の広がり方などの違いが、写真では小さくなってしまっておりますが見てとれるかと思ひます。

(注...大きな写真は資料2の80ページを参照)

また、ここでいう「成長率」とは、実験開始当

初と終了時を比較して、植物の縦・横・高さが何センチ大きくなったかを比べ、それぞれをパーセント化します。その後、それぞれの成長率を平均化したものを全体の成長率として、ここに挙げています。単純に言えば、全体的に最初からどれくらい大きくなったかをパーセントで表したものです。

それで比較すると、今実験で作成した堆肥を入れたものと入れていないものでは、23%程度成長に差が出ていました。このように数値上にも、はっきりと差が出てきています。

以上が実験についての全容と数値的な報告になります。

\* 実物展示  
(会議録では、  
写真で代用)

さて、今回は、それらの実験に使用したものをこの会議室にご用意してありますので、ご覧いただきたいと思います。

まず、こちらが基材の元となる、くんとんとピートモスを混ぜ合わせたものです。これがコンポストの元であり、堆肥になります。未だ水分がなくさらさらであり、においもないことが確認できると思います。

(写真)



次に、こちらが実際運用中のダンボールコンポストです。

職員が現在自宅で行っているものをもってまいりました。現在、基材の温度は42度程度あります。

(写真)



ほぼ毎日、よくかき混ぜてから、生ごみを入れ

るという作業を繰り返しています。

菌が活動する作用で温度が上がる訳ですが、42度という温度であれば、コンポストの中に手を入れると温かく感じることができ、菌の活動を肌で感じるができると思います。

また、においについても、現在嗅いでいただくと、通常想定される生ごみのツンと鼻を突くようなにおいではなく、少し柔らかみのある発酵臭になっていることがわかります。

そして、堆肥として熟成させたものがこちらです。

(写真)



こちらについては、もう生ごみのにおいといったものは感じられず、ほとんど土のような感じになっています。

そして、最後にこちらがパンジーとレタスです。

奥側が堆肥を入れて育てたもの、手前が堆肥を

入れないで育てたものになります。

環境は全く変わらず同じ状態で育てていますので、基本的には堆肥の有無だけの差になります。

写真ではわかりにくいので、実際に触っていただくとよいのですが、大きさだけではなく、葉の張り具合や色などにも大きく変化が現れていることがわかれると思います。特に、リーフレタスは触ってみるとわかりやすいと思います。

なお、プランターなどの小さな場所で育てたため、作った堆肥はいったんふるいにかけて、土：堆肥で3：1程度の割合で混ぜました。

(写真)



\* 資料 1 右側  
二 モニター実験について  
1 実験内容について

それでは、資料 1 の説明に戻ります。

次に、「二 モニター実験について」のご説明をいたします。

2 モニター実験結果について

まず、「1 実験内容について」ですが、これは平成 24 年 9 月 6 日から 12 月 5 日までの 3

か月間、瑞穂生活学校に所属されている方（平成25年1月現在19名）の中から10名の有志の方にご協力いただき、各ご家庭でダンボールコンポスト試用実験のうち第1段階である、「生ごみ投入実験」にご協力いただいたもので、その後、アンケートや座談会を行い、町民としての貴重なご意見をいただきました。

次に、「2 モニター実験結果について」ですが、詳細については、資料2の86ページ以降に譲りますが、ここではいただいたご意見のうち、代表的なものを簡単に表にまとめましたのでご覧ください。

この意見は、参加していただいた方のうち、アンケート・座談会当日（平成24年12月6日）に都合のついた8名の方に伺ったものです。

設問としては、「自分でもう一度ダンボールコンポストをやりたいか」というものでしたが、「いいえが100%」という結果でした。

また、「ダンボールコンポストは普及しないと思うか」という設問に対しては、「はいが100%」という結果でした。

なかなか厳しいご意見をいただいた理由をまとめますと、次の3点になります。

一つ目が、虫が湧くのが不快だということがあげられます。今回の実験では、ご協力いただいた10世帯のうち、半分に当たる5世帯に何らかの虫が湧きました。そのときの不快感のことをおっしゃっています。

二つ目が、においがするです。

さきほどご覧いただいたときにも、少しにおいがしたと思いますが、ダンボールコンポストをや

らなければ、このようなおいとの付き合いは不要であるので、よりにおいが気になったようです。

このにおいについては、本人だけではなく、協力していただいたご家庭の他のご家族の方から、変なにおいがするという苦情があったとの報告も受けています。

三つ目は、手間がかかるということです。

ダンボールコンポストを実施すると、まず入れていいものを分ける、水を切るなどの手間がかかります。また、中性洗剤がコンポストに入ると菌が死んでしまうため、中性洗剤を洗ったり、生ごみにかからないように工夫するなどの手間もかかります。そして、生ごみをわざわざダンボールに入れる手間、その後かき混ぜる手間などが直接的にはかかります。

また、それ以外に、家の中に置くとにおいがするため、モニターの方々はダンボールを屋外に置く方が多かったのですが、そうすると雨に濡れたりしないように天候などを含め、普段からダンボールに気を配ったりしなければならぬため、負担に感じたようです。

なお、モニターの方々にお願いしたやり方に比べて、その後の職員の自宅での体験から、より簡易的に行ってもダンボールコンポストが機能していることから、少しその負担や懸念は払拭できるかもしれないと考えております。

さて、最後に、「三 まとめ」です。

ダンボールコンポストによって、ごみの減量になること、出来た堆肥にある程度の効果があるこ

\* 資料 1 右側  
三 まとめ

	<p>とが実証できました。</p> <p>一方、モニターの方のご意見にもあったが、実施に伴う手間などの物理的・心理的負担や経済的な負担などを考えると、積極的な普及策は困難ではないかと考えます。</p> <p>しかし、各個人がダンボールコンポストを実施することは、今後の循環型社会の形成に有用かつ有意義であるとも考えています。</p> <p>こういったことを踏まえまして、今後の啓発の是非について、ご検討いただければと思います。</p> <p>詳細については資料2に譲る形をおとりしたため、大変ざっぱくな形となってしまいましたが、事務局からの資料1・2の説明は以上です。</p>
<p>( 鳥海会長 )</p>	<p>事務局による資料1・2についての説明は終了しました。これより各委員のご意見・ご質問等をお受けします。</p>
<p>( 質疑応答 )</p> <p>( 坂内委員 )</p>	<p>3点質問があります。</p> <p>1つ目が、先ほど虫が湧いたという話があるが、その虫はどのように退治したのか。</p> <p>2つ目が、今回は3か月という実験であったが、もっと長い期間ダンボールコンポストを使用することができるのか。</p> <p>3つ目が、今回の実験からダンボールコンポストにかかる経費について教えてほしい。</p>
<p>( 事務局 )</p>	<p>まず1点目の「虫の対処方法について」ですが、今回資料に詳細はお載せしませんでした。</p> <p>せっかくなので、この機会にどのような虫が発生したのかということについてお話できればと思います。</p>

\* 資料 2 6 ページ

資料 2 の 6 ページをご覧ください。

こちらの上部に「発生する虫について」という項目があります。こちらの写真をご覧ください。

職員が各種資料等を参照したところ、一番左の写真がショウジョウバエで、残りの 2 枚がアブであり、真ん中の写真のうじ虫の成長したものが右側の幼虫になるということでした。

これらの虫が多いご家庭では 30 ~ 50 匹程度、少ないご家庭では 4 ~ 5 匹程度発生し、その発生の仕方はどれか一種類しか発生しなかったり、混在して発生したりとさまざまでした。

この虫の対処方法としましては、まずそのままにしておけば、増えるおそれがあります。

そこで、今回とった方法としては、ダンボールの中の基材全部を大きなビニール袋に移し変えて、中の空気を抜き、袋の口を閉めて密閉状態にします。そして、日が当たるところに、4 ~ 7 日程度干して、中のコンポストの温度を上げます。

そうすることで、中の空気が遮断されることと、基材の温度があがることで虫を駆除することができるそうです。

これを虫が発生した各モニターのご家庭で実験したところ、数匹残ったケースはあったものの、ほぼ虫を駆除することができました。

2 つ目が、「ダンボールコンポストの使用期間」についてですが、もちろん一番最初に問題になるのはダンボールの強度です。入れ物であるダンボールが弱ってしまうと、継続は困難であるため、だいたいダンボールに限界がくるのが 3 か月程度というように言われているようです。したがって、環境が良ければ、もっと期間を延ばすことが

	<p>できるのではないのでしょうか。</p> <p>次に問題となるのが、コンポストの能力の限界です。ある参考資料によりますと、ダンボールに入る程度の量のくんとんとピートモスで作成した基材が分解する生ごみの限界量は大体50キログラム程度とありました。それ以上の生ごみを入れると、基材がヘドロのようになってしまい、分解しないそうです。したがって、入れる量によってもダンボールコンポストの使用できる期間が変わってくるようです。</p>
* 資料 2 1 8 ページ	<p>3つ目が、「ダンボールコンポストにかかる経費」についてですが、まず資料2の18ページをご覧ください。</p>
* 資料 2 1 1 ~ 1 5 ページ	<p>この資料2の11ページからはじまる「試用実験の準備や実施方法について」では、準備の過程やそれぞれ用意したものについてかかった費用について、写真付きでお載せしてあります。</p>
* 資料 2 1 8 ページ	<p>18ページの2段落目をご覧ください。</p> <p>こちらのとおり、今回導入にあたってかかった費用は、3,927円で、90日を想定していますので、1日あたり43.6円という費用がかかることとなります。</p> <p>また、初回以降継続するにあたって必要になるものだけで考えると、1,544円で、1日あたり17.2円という費用がかかることとなります。</p>
( 坂内委員 )	<p>1点目の虫の対策について追加して伺いたいのですが、殺虫剤ではだめなのか。</p>
( 事 務 局 )	<p>殺虫剤については、少量の使用でしたら大きな問題はないのではないかと考えています。しかし、これは生ごみを処理する工程であると同時に</p>

	<p>堆肥を作っている工程でもあります。もし殺虫剤を大量に撒いた堆肥があったとして、それを野菜などに使った場合に、やはり食べることを躊躇するのではないのでしょうか。そういった食の安全と言った面から、今回は殺虫剤の使用をやめていただきました。</p>
(根岸委員)	<p>中には、殺虫剤を使う場合は、コンポストにかぶせた蓋となる布に殺虫剤を散布したという例があると聞いたことがあります。</p>
(事務局)	<p>私が以前別の容器型のコンポストを使用していたときに、虫の駆除に「木酢」を使用していたのだが、それはダメか。</p>
(坂内委員)	<p>「木酢」に効果があるという資料を見たことがありますので、お試しいただくことは可能かと思えます。</p> <p>今後、ダンボールコンポストが普及したときに庭のある家庭であれば問題はないが、庭のない家庭などはできた堆肥を処分する場所がないのではないか。以前、できた堆肥はエコパークのところで引き受けるという話があったが、わざわざそこまで持ってきてもらうのは難しいのではないか。例えば、生ごみを出すときに一緒に回収するなどの方法を考えておいた方がよいのではないか。</p>
(鳥海会長)	<p>私は現在野菜を育てているが、隣の畑の方から老人ホームの残飯を使って作った肥料をいただいたことがあった。その堆肥自体はなかなかいいものであったが、エコパークなどで配布だと言っても取りに行くのも大変だし、ましてや家庭でできた堆肥を持って行くというのはなおさら大変なのではないかと思う。そこで、作った堆肥が流</p>

<p>(事務局)</p>	<p>通するためのうまいシステムがあればいいのではないかと思う。</p> <p>流通についてですが、瑞穂生活学校様とのお話でも出たのですが、産業祭で配布するすとか、エコパークも循環型社会の拠点との位置づけもありますので、そこで行われるフリーマーケットなどで配布するなどの案もあります。</p> <p>ちなみに、昨年11月に開催した環境展でダンボールコンポストの展示とその資料配布を行ったのですが、結構好評で、関心がある方に周知を行うことができました。</p> <p>また、作った堆肥の使用方法についてですが、近隣他市では、私有地を有効活用して、産業関係の課と環境関係の課が共同して、その農地で野菜を育てるなどの事業も行っているようです。</p> <p>今後、ダンボールコンポストを普及していくとなれば、いろいろ研究していく余地があるのではないかと考えています。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>流通と言ったことを考えていくと、各ご家庭で作った堆肥の質が問題になってきます。塩分が多かったり、油分が多かったりするなど、花壇などに使用するには問題ないが、家庭菜園などで使用することを考えれば、その質をどうやって確保するかが問題となってきます。</p> <p>そういったことも踏まえて、配布方法などを検討課題にしていきたいと思います。</p>
<p>(根岸委員)</p>	<p>モニターの方のアンケート結果は大変厳しいものだったが、中には「楽しかった」と答えた方が3名あったようだ。なかなかやることは難しいけれど、そういった方々のために、町としてダンボールコンポストというものがあることを紹介</p>

	<p>して、後は自主的に住民が個々で行っていく程度で、全体としてやっていくのは少し難しいのではないか。</p> <p>私も現在個人的にダンボールコンポストをやっているが、なかなか神経を使う部分もあるし、難しい。</p> <p>なお、羽村市にある「めぐみネット」という団体の方だったが、もともとダンボールコンポストに興味があった方が去年の環境展で配布された資料に大変興味を持っていらっしやったのを私も見ました。そういう自主的に興味がある方に紹介するというを中心に進めていけばいいのではないかと思う。</p>
(事務局)	<p>環境展以降、福生市にある「花と緑の会」というグループの会員の方も興味を持っていただき、先日情報交換をすることができました。</p>
(事務局)	<p>そういう方々は「ごみ減量」というよりも、「環境全体」としての視点をお持ちなことが多いです。焼却するごみを減らすことで地球温暖化を抑制するとか、コンポストで作成した堆肥で育てた野菜を食べることで子どもの食育になるとか、大きな視点をお持ちのようです。</p>
(坂内委員)	<p>事務局の方では、ダンボールコンポストをどのように進めていきたいと考えているのか。</p>
(事務局)	<p>事務局としては、ごみの減量や環境教育なども含めて非常にいいことではないかと考えています。そういったことから、ホームページや広報などで紹介をしていきたいと考えています。</p> <p>また、予算の問題もありますので、町の事業としてダンボールコンポスト一式を提供することなどは難しいと考えていますが、強く興味を持っ</p>



<p>( 塩澤委員 )</p>	<p>には「風通しの良い場所においてください」とお願いしています。</p> <p>空気がよく入る形であれば、材料を変えてもかまいませんが、今のところ、ダンボールよりも手軽で手に入りやすい素材が見当たらないということもあるようです。</p> <p>なお、1日1回基材全体をよくかき混ぜるのですが、このかき混ぜ方が不十分だと翌日の温度などに影響があり、空気が菌の活性化に果たす役割の大きさを感ずることがあります。</p> <p>今のお話で、「菌には空気が必要だ」という話だったかと思うが、先ほどのお話では「虫を殺すために密閉する」ということだった。両者は矛盾するのではないか。</p>
<p>( 事務局 )</p>	<p>先ほどの「密閉する」というのは、虫の駆除策としてご説明したものです。私自身もこの密閉作業によって、菌が死んでしまうのではないかと心配していたが、先日の実験では、駆除作業後、コンポストをやりなおしていただいたら、最初の数日は菌の活動は弱かったが、しばらくたてば、また元のように活動していました。</p>
<p>( 塩澤委員 )</p>	<p>今の若い人では、虫が湧いたらそれだけでこわくて触れないなどの状態になってしまい、うまく行かないのではないか。</p>
<p>( 事務局 )</p>	<p>そういったことはあるのではないかと思います。</p> <p>ただ、今回、他市の団体の方とお話をしておっしゃっていたのは、「いいものだから、虫が湧くんだ。虫が湧かないようなものであれば、肥料にするなんてとんでもないんだ」というお話でした。</p>

	<p>また、めぐみネットの方から伺ったのですが、以前輸入物の果物の皮をダンボールコンポストに入れたことがあったのですが、それがいつまでたっても分解されなかったそうです。それは防腐剤などを大量に散布しているからではないかということでした。こうやって、ダンボールコンポストをやっていると、食の安全についても興味及び、食育につながっていくのではないかと思います。</p>
(事務局)	<p>今後、いろいろ調べた結果は住民の方に周知をしていきたいと思います。あくまでダンボールコンポストはごみ減量策なので、そういったことを考えながら、普及していければいいのではないかと思います。</p>
(鳥海会長)	<p>こういった資料などを使って、ホームページなども有効活用して、周知を図ってもらえればと思います。</p>

<p>( 議題 2 )</p> <p>西多摩衛生組合での災害廃棄物受入に関する進捗状況について</p>	
<p>( 会議内容 )</p>	
<p>( 鳥海会長 )</p> <p>( 西多摩衛生組合 )</p> <p>* 資料 災害廃棄物の受入状況について 1 ページ</p> <p>3 ページ</p>	<p>それでは、「議題(2)西多摩衛生組合での災害廃棄物受入に関する進捗状況について」、西多摩衛生組合の説明を求めます。</p> <p>議題2について説明します。</p> <p>まず、1ページ目は組合のごみ搬入状況をまとめたものでございます。右端が合計欄となっております。平成24年4月から25年1月までの搬入量は、約55,534トンでございまして、1日あたりの平均搬入量は181トンとなっております。</p> <p>そのうち、災害廃棄物の搬入量は約1,161トンで搬入日数は1月末で102日です。</p> <p>また、搬入車両台数の合計は301台となっております。1日あたりで平均いたしますと、搬入車両3台で1日あたり約12トンの受け入れとなっております。</p> <p>続きまして、3ページをご覧ください。こちらは東京都下の多摩地域において災害廃棄物を受け入れるまでの全体的な合意形成をまとめてございます。</p> <p>多摩地域におけます現実的な動きとしては、3ページ右側中段あたりの 番になりますが、「女川町と宮城県及び東京都と東京都市長会の基本合意の締結」が平成23年11月になされています。</p> <p>続いて、 番になりますが、平成24年1月末</p>

4 ページ

から多摩地域の7施設についても、受け入れに向けての事務対応が開始されております。

恐れ入ります、4ページをお開き願います。

こちらは西多摩衛生組合の受け入れ対応をまとめたものでございます。

15番から23番までは、災害廃棄物受け入れに伴います説明対応でございまして、組合周辺住民だけを対象とした説明会を2回、それから羽村市及び瑞穂町の全市民の方を対象とした説明会を各々1回ずつ実施しております。

さらに、組合広報誌の「エコにゆうす」を周辺1万世帯に全戸配布することで説明対応してきたところでございます。

そして、24番になりますが、平成24年6月11日に多摩地域では一番初めに西多摩衛生組合で災害廃棄物の受け入れを開始いたしました。当日はマスコミ関係者や清掃担当職員に加え、周辺住民の立会いの元、安全確認を行いながら搬入しております。

26番は環境省主催の災害廃棄物受入施設周辺住民を対象とした被災地の見学会が7月13日と14日にわたり行われています。西多摩衛生組合周辺からは、29名の方が参加して、現地における災害廃棄物処理の安全確認と同時に女川町の住民の方たちとの交流もさせていただきました。

そして、27番になりますが、24年10月12日に被災地の状況と災害廃棄物処理の安全性と交流会の様子等について、当組合周辺住民の方々が主催者となり、113名の参加をいただき、報告会を開催しております。

<p>5 ~ 8 ページ</p>	<p>以上がこれまでの経過でございます。</p> <p>続きまして、資料の5から8ページまでは災害廃棄物の受け入れから焼却までの手順をまとめたものでございます。</p> <p>こちらはビデオにまとめてございます。後ほどご覧いただきますので、説明は省略させていただきます。</p>
<p>9 ページ</p>	<p>続きまして、9ページをご覧ください。</p> <p>災害廃棄物の受け入れ状況についてご説明いたします。</p> <p>まず左側上段は災害廃棄物の受け入れ量及び女川町での遮蔽線量率や空間線量率の測定結果となっております。特段問題はございません。</p> <p>受け入れ量は、平成24年12月末現在で1,099トンとなっております。当初搬入予定量の50パーセント減になると予測しております。</p> <p>次に、資料左側下段から右側にかけては、西多摩衛生組合における災害廃棄物の焼却前と焼却後の維持管理状況及び放射能の測定結果をまとめてございます。</p> <p>こちらの詳細についてもビデオでまとめてございますので、後ほどご覧いただけますが、西多摩衛生組合としてはご指摘のあった災害廃棄物焼却に伴う排ガス中の有害物質の発生状況及び放射能測定結果については、ご覧のとおり焼却前と焼却後と比較しても基準値を下回っており、焼却前と同様の出現範囲となっております。</p> <p>以上のことから、災害廃棄物の焼却については燃焼管理や放射能の測定結果を見ても、周辺環境に対する影響はないものと判断しております。</p>
<p>10 ページ</p>	<p>続いて、10ページをご覧ください。</p>

宮城県女川町における災害廃棄物の状況について、東京都を通じて情報提供がありましたので、ご説明いたします。

まず資料左側上段ですが、女川町における一次仮置場の状況ですが、災害廃棄物の全体量は約191,000トンとなっております。

平成23年12月から処理をしまして、平成24年12月末現在で90.7パーセント、173,319トンが一次仮置場で処理されています。

この約173,000トンは一次仮置場から女川廃棄物選別処理施設に搬入され、手選別ラインによりさらに分別がされております。

選別された内、「木くず・廃プラ・その他の可燃物」として約22,969トンが当組合を含む東京都内の清掃工場で処理されて、残りの約150,000トンについては現地で処理していることとなります。

今後の処理状況については、平成24年12月末現在、一次仮置場には残り約17,681トンのがれきが残っているようですが、25年の2月中に一次仮置場での処理を終了させ、選別処理施設に搬入する予定です。

その後、選別処理施設内で分別作業を行い、可燃性廃棄物の搬出は3月までに終了させる予定と聞いております。

また、右側の写真は上段が24年3月、下段が25年1月の一次仮置場の状況となっております。がれきが片付けられている状況を把握することができます。

以上、ざっばくなご説明で申し訳ございませんが、災害廃棄物の受け入れ状況となっております。

<p>( 鳥海会長 )</p>	<p>す。以上で、説明を終わりました、引き続きビデオをご覧ください。</p> <p>～ビデオ放映「宮城県女川町の災害廃棄物受入処理～西多摩衛生組合の処理状況～」～</p> <p>本ビデオの取り扱い等については、西多摩衛生組合にお問合せください。</p> <p>事務局による資料１・２についての説明は終了しました。これより各委員のご意見・ご質問等をお受けします。</p>
<p>( 質疑応答 ) ( 臼井委員 )</p>	<p>当初の予定に比べて、半分の搬入量になる予定だということであったが、なぜ半分に減ってしまったのか。</p>
<p>( 西多摩衛生組合 )</p>	<p>これは単純に当初予測したものに比べて、廃棄物の発生量自体が少なかったということがあげられます。災害廃棄物を分析すると、土砂などが多くて、現実的に廃棄物の量が少なかったということが挙げられます。</p> <p>また、東京都内では２３区で１９施設、都下で７施設の合計２６施設で受け入れをしたため、西多摩衛生組合への搬入量も減ったと考えられます。</p>
<p>( 臼井委員 ) ( 西多摩衛生組合 )</p>	<p>今年の３月で搬入が終わると聞いているがどうなのか。</p> <p>終わる予定ということで聞いています。</p>

( 議 題 3 )

その他

( 会 議 内 容 )

( 事 務 局 )

特にありません。